

農村教園ルポルタージュ

松 本 義 圓

農村教園である光照教園の經營者として、このルポルタージュを記す。

A 地 區 情 勢

光照教園の所在地區は、京都市伏見區竹田内畑町である。然し、此地區は數年前迄、京都府紀伊郡竹田村竹田であつた。従つて、此地區生活者の現情勢は、米作専農ミ、野菜兼耕者が中心で、少數の地主ミ、多數の小作人に依つて構成され、此等を對象とする小賣商人の小部分が、内在生活をしてゐる。

B 地 區 特 種 内 容

此地區は如上の關係で、風俗習慣は純全たる農民を基礎として結成され、全日本地區農民風俗ミ大差なく、金融流通に乏しく、素朴にして佛教信仰に厚く、従つて、寺院奉仕は金貨より勞力の奉仕が大部分である。

C 地 區 兒 童 全 貌

地區兒童は全て農民兒童であり、彼等の懷中はチコロートの代りに、自宅で煮た芋が湯毛を立て、スマートな小學生服の代りに、木綿の着物を着て遊んでゐる。

彼等の娛樂機關は乏しく、彼等の遊園地は田圃であり道路であり、寺院境内である。映畫は伏見方面の映畫街（此處は京極映畫街で封切後、約半年内至一年遅れ、入場料は兒童は五錢位）に行く。それも益々正月位であつて、彼等にはトーキーニュースや、ミツキイマウスや、シャリーテンブル等は凡そ他人に等しいものである。彼等は小學校や、光照寺が開催する十六ミリのサイレント映畫でさて、心からの拍手を送り、映畫終了後の會場には、豆の皮や、芋の皮がいつばいに散亂してゐる。彼等の愛唱する流行歌は、「こゝはお國」であり、「爆彈三

勇士」である。稀に「二人は若い」や「トンガラカッチヤ嫌よ」の口笛が流れてくる。勿論、こんな流行歌は昭和十一年末期の事である。

彼等の精神状態は、粗野ではあるが強堅で太い大綱をゆるく兩端よりひつばつた姿に似てゐて、感覚は鋭敏でないが、記憶力は承續性があり、行動は荒ッほく、それでも悲しい時は、土に塗れた頬にいつばい涙を流して泣き、その泣き聲は堂々立てる。嬉しい時は先に兩手、兩足を行動して表現し、それより後に、言語に移動する傾向がある。

彼等は如來に合掌する禮儀は知らないが、それを教へるこゝ、從順に服從する性質を有してゐる。

彼等は從つてデリケートな音楽や、ダンスは苦手である。彼等の家庭が江州音頭を愛好し、その盆踊りが唯一の踊りである關係上、四分の三拍子や、變口調なんか、親友にしない傾向が多分にある。

D 經營方針

私は以上の事情を充分に検討した結果、左の如き經營方針を立てた。

(イ) 無經費を以て標準とする事。

(ロ) 勤行ミ童話を中心とする事。

(ハ) 音楽ミ舞踊は考慮に入れ、當分實施しない事。

(ニ) 毎週土曜日の晩に開催する事。(これは農村教園の特種性で、日曜は家庭の手助けに盡く追ひ廻はされ、土曜の晩のみが、彼等兒童のドンタクである。

(ホ) 住職である私を中心である事。

(ヘ) 大會は春五月に、花祭り大會を行ふ事。

以上の大體のプランであつた。

E 經營プロ

(イ) 平日プロ

本堂入場、靜座、宗歌、日常勤行、訓話、童話、サヨナラの歌、本堂退場。

(ロ) 花祭り大會プロ

本堂入場、靜座、宗歌、日常勤行、訓話童話、映畫、サヨナラの歌、本堂退場。

花祭り晚餐會。これは大會開始前に催す。出席兒童各家より、米三合集める。これが會費である。

副食を煮出しは光照寺婦人會が支援する。

映畫賃貸料及び講師謝禮は、婦人會後援となつて居て、約五圓である。

大會出費は電燈代位である。

(ハ) 特種プロ

遠足、終始歩くの遠足である。往復約五里を程度として催す。三月に一回位。これは農閑期を利用する。

F 成績 状態

非常に好成績である。第一に家庭が一致して感謝の意を表してゐる事である。次に兒童が熱狂状態にあつて、特別事情で、時々休む時は、次週は是非開らくやう歎願する有様で、近來は兎もすれば、彼等兒童の熱に私の方が動かされてゐる傾向さへある。

無經費を中心としてゐるので、今後の持続性は充分であるし、兒童負擔力も輕く、現在に於ては、現在の設備で充分である。

然し、都會教園衰兆の一原因に、都會兒童が童話のみに満足しない云ふ點である。この現象は十年後には必

す此教園にも襲來するだらう。現在、私はこれを研究しつつある。

G 經營 注意

現淨土宗の農村教園不振の原因を探究するに、大體左の如きものになる。

- (1) 農村が不況である。
 - (2) 童話の話方も知らぬ。
 - (3) 童話の材料が乏しい。
 - (4) 中央との聯絡がない。
 - (5) 講師を自分でのみやらねばならぬ。
 - (6) 自坊經費がない。
 - (7) 多忙な法務に追はれてゐる。
 - (8) 音楽やダンスが判らない。
 - (9) 本堂や、境内が荒れる。
 - (10) めんきうくさい。
- 要約すればこの十項目にあるやうだ。私はこれ等の問題に付いて述べやう。

(1) 無經費から行へば實行出来る。巷間の日曜教園經營法や、都會教園經營法を實施しやうと意圖する

から、當然不可能に墜ちるのである。深刻な不況農村に云へ、勤行に童話の教園は開設出来ると思考する。右記の花祭り大會等は中止しても、何等教園經營には影響しないものだ。若し開催するにすれば、童話を中心とする花祭り大會を行へばよい。

(2) 言語の出来ない住職が、現淨土宗に居ない如く、従つて、オハナシの出来ない事は絶體にない。例へて教風の童話であらうに、途切れ勝ちの童話であらうに、それで充分だ。農村兒童教園の創立はそれで可能である。

(3) 童話の材料に乏しい事は事實だ。無數寺院は世界童話大系、實演童話集ETCを備へ付ける事できへ大きな財的恐慌である。然し、全然、昔話を知らぬ住職はない。例へ、童話技能が劣つてても農村兒童には問題でない。彼等の大部分は、娯樂に貧困してゐる現在、タドくしい童話であり、又聞く童話であれ、大人しく聞くものである。

(4) 中央との聯絡がない事も事實である。然し東京、京都の兒童協會は、少しも積極的に地方との聯

絡を希望してゐる現在、自分より聯絡を付ければ八分の聯絡は付くを考へる。勿論、この聯絡の意味が金額の補助であれば「ナニヲカイワンヤ」である。補助要請の目的で教園を立てるものではない。教園の目的は淨土教思想の兒童への育成にあるからだ。私の云ふ聯絡はプロ編成參考。カードバンフレット、教案の指導等を意味するものである。

(5) 講師を自分でやるのが當然である。他人まかせで自坊經營が出来ない如く、教園經營も中心は自分でなければならぬ。

(6) 自坊經費がないから、無經費からやるに考へる。オルガンの代りにハモニカ、ハモニカの代りに木魚に轉向すれば設備費は本堂常設のもので充分である。

(7) 多忙な法務の中に、閑時日を作り、一周に五時間位、兒童に遊ぶのも、亦よからずや。暮や麻雀は個人的であるが、教園は布教の一部であり、宗務所推賞のものである。朝から晩まで、毎日法務であればこれは亦仕方がない。

(8) 音楽やダンスを知らなければ、教園が経営出来ない云ふ理論は、現浄土宗内に最もよく聞く對話

であるが、法然上人の浄土教思想依導には、ダンスや、音楽は無くても出来るものである。教園の第一義諦は合掌三禮にあり、歸依佛、歸依法、歸依僧にあり、念佛生活の信念養育に存在する。勿論宗教音楽や、宗教舞蹈が、此等養育方法の一助にはなるが、それが全體では決してないのである。

(9) 本堂、境内の莊嚴も大切である。これは一理あるから、その方が重要な人は在方がない。然し、檀中に理解さへ得れば、全然不可能の問題ではなく且亦、そう荒廢するものではなく、むしろ、そんな兒童を養成する必要さへある。

(10) めんごうくさい人は、縁なき衆生であるから、お釋迦様も除けられた如く、私もこの論者の前に退却せざるを得ない。

以上、淺學薄徳の私が、經驗を通じて、このルポタージュを記したが、このルポは研究論議さる可き點は充分にあると思ふ。このルポが論議研究の臺上になり、以て農村教園經營の一参考になれば、私のルポも有意義になるものである。

(十二・一・三十)

インターネット公開許諾のない文章には
墨消し処理を施しています。